

「研究大学強化促進事業」における 成果概要 岡山大学

目的

強み研究領域において、世界で研究の量、質ともに存在感を示し、また、産学官連携等によるイノベーション創出、地域創生を進め、日本の研究活動の牽引大学となる

これまでの実績・取組状況

【将来構想1】優れた研究推進体制を持つ大学

- ◆ URA制度整備及び定着(自主財源での雇用、無期雇用、企画業務型裁量労働制)
- ◆ 研究推進機構の設置
- ◆ 重点研究分野(15領域)の選定
- ◆ 研究IRを活用した人事戦略・評価システムの構築
- ◆ IR/IE室企画会議の設置
- ◆ 価値創造統合リスクマネジメント(ERM)本部の設置

【将来構想2】世界的な学術研究を推進する大学

- ◆ 先進的研究の創出
 - 重点研究分野における拠点: 14拠点
 - 研究プロジェクト支援数: 80件
 - 研究教授: 14名、研究准教授: 13名
 - 欧州の助成事業: 3件採択
 - 支援した拠点・研究者の業績(2016-218年比)
 - 論文数: 40%増、国際共著論文数: 50%増
 - Top10%論文数: 63%増
 - 外部資金獲得額: 780,863千円増

【将来構想3】イノベーションを推進する大学

- ◆ オープンイノベーションプラットフォーム(イノベーション・マネジメント・コア)の設置
- ◆ 岡山県 企業と大学との共同研究センターの設置
- ◆ 企業との共同研究費: 65%増(2015年比)
- ◆ 特許権実施等の収入: 114%増(第2期中期目標期間比)

今後5年間程度の将来計画

2022~2027 岡山大学ビジョン3.0
有りたい未来を共に育み共に創る研究大学

高度専門人材の人事制度改革

- 高度専門人材の育成・確保
- 高度専門人材の人事給与システム改革

エビデンスに基づく「ひと・もの・カネ」の重点投資

- IR/IE機能の更なる強化
- 人事戦略・評価委員会、研究評価システム
- RECTORプログラム拠点の新設
- 国際研究拠点の形成支援
- 博士後期課程学生・若手研究者支援

イノベーションマネジメントコア(IMaC)の発展・拡充

- 財政基盤の強化、収入財源の多様化
- 「組織」対「組織」の共創活動の加速

コアファシリティの本格実施

- 研究機器・設備の共用による好循環(研究環境の充実と有益性の向上)

統合リスクマネジメント/内部統制の強化

評価指標※	
Top10%論文数	10%増
国際共著論文数	15%増
民間企業との共同研究費	30%増
若手研究者の論文数	50%増
研究機器の学外利用料	200%増

※第4期中期計画における指標

岡山大学長期ビジョン2050
地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学

研究大学強化促進事業の最終評価について

評点区分 (評点の目安)	事後評価 結 果	機関の分布
S (特筆すべき成果を上げており、将来計画に基づく事業終了後の発展が大いに期待できる)	8機関 (36.4%)	東北大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学、 岡山大学 、広島大学、早稲田大学、自然科学研究機構
A (想定された成果を上げており、将来計画に基づく事業終了後の発展が期待できる)	11機関 (50%)	北海道大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、電気通信大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、神戸大学、熊本大学、奈良先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学
A- (想定された成果を上げており、将来計画に基づく事業終了後の発展が期待できる)	3機関 (13.6%)	九州大学、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構
B (おおむね成果を上げているが、将来計画に基づく事業終了後の発展には一層の努力が必要である)	—	—
C (想定を下回る成果であり、将来計画に基づく事業終了後の発展は難しいと思われるので将来計画の再検討が必要である)	—	—
D (想定を大きく下回る成果であり、将来計画に基づく事業終了後の発展が見込めない)	—	—



https://www.mext.go.jp/content/20230322-mxt_gakiokik-000028949_1.pdf

岡山大学は戦略的かつ、着実に研究大学としての歩みを進めています。採択された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」などを加速とし、今後さらなる研究力強化・イノベーション創出を精力的に行います。

事後評価（岡山大学）

総合評価	コメント
S	<p>以下の点から「特筆すべき成果を上げており、将来計画に基づく事業終了後の発展が大いに期待できる」と判断した。</p> <ul style="list-style-type: none">○客観的な指標の推移について、科学研究費助成事業における若手種目の新規採択率、国際共著論文の割合、民間企業との共同研究・受託研究や技術移転（特許権実施等収入額）が増加するなど、全体として指標が大きく伸びている。○補助事業期間中の活動について、URA等の高度研究マネジメント人材を集約しURA業務の「見える化」を推進するとともに、国際研究拠点形成プログラム（RECTOR）によって世界トップレベルの研究者をPIとして招へいして国際共同研究を推進することにより、本事業開始前と比べてTop10%論文数を約1.5倍にするなど、計画を上回るアウトカムを得ている。○補助事業終了後の将来計画について、「岡山大学ビジョン3.0」の下で、人事制度改革等によりURA等の高度専門人材の活用方策が明確となっており、エビデンスに基づく「ひと・もの・カネ」の重点投資やイノベーションマネジメントコア（IMaC）の発展・拡充などの中核的な取組と成果指標が具体化され、更なる長期的な計画への展開を構想するなど、これまでの活動実績を踏まえた優れた内容となっている。